

平成 25 年度 第 3 回札幌市入札・契約等審議委員会の審議概要

1 開催日時

平成 25 年 11 月 28 日（木）18：00～20：00

2 開催場所

札幌市役所地下 2 階 1 号会議室

3 出席者

(1) 委員

蟹江委員長、岡田委員、小山委員、山下委員、山本委員

(2) 札幌市職員

財政局管財部長、財政局工事管理室長、財政局契約管理課長、財政局工事契約担当課長、財政局技術管理課長、財政局建築設備検査担当課長、交通局総務課長、水道局総務課長、病院局経営企画課長 他 9 名

4 次第

(1) 開会

(2) 委員長あいさつ

(3) 報告事項

ア 工事等発注状況について（平成 25 年度 9 月末）

イ 意見書（平成 24 年度）に対する市の対応状況について

(4) 抽出工事等の決定・審議

(5) 意見交換

(6) その他

(7) 閉会

5 審議概要

(1) 報告事項

ア 工事等発注状況について

【小山委員】 業務の随意契約が増加している原因は何か。

【札幌市】 工事の設計監理が増加しているためである。

【岡田委員】 失格者が 100%発生していることは、参加者が多いことと関係があるか。

【札幌市】 参加者が多いため、適切な積算ができない者もいる。また、くじ引き発生率が高く、最低制限価格の近辺で入札すると、下回る場合もあると思う。

【蟹江委員長】 地質調査や測量は、価格競争の余地がなく、くじ引きで決定する状況になっている。

【山本委員】 造園工種において、くじ引き発生率が増加している原因は何か。

【札幌市】 設計図書の質問に対する回答や、公表している設計内訳書などを通して、参加者の積算精度が高くなったためと考えられる。

【蟹江委員長】 参加者数は全体的に減少傾向にあるが、原因は何か。

【札幌市】 今年度は昨年度に比べて発注額が大幅に増加しており、競争が緩和されたためと考えられる。

【山下委員】 北海道庁では入札不調が発生していると聞いたが、札幌市の状況はどうか。

【札幌市】 平成 24 年度は年間 50 件程度だったところ、今年度は 3 倍の 150 件程度に増加している。

【蟹江委員長】 顕著に表れていると思う。多く発生している工種はあるか。

【札幌市】 土木、下水道、建築、管工種などで多く発生している。

イ 意見書に対する市の対応状況について

【岡田委員】 くじ引きの結果、落札者に偏りが出ることはないか。

【札幌市】 札幌市で採用している方式は、全国標準以上に公平性を確保できるものであり、公正なくじ引きが行われていると認識しているが、まれに、同一企業が連続してくじ勝ちをする場合もある。

【蟹江委員長】 ランダム係数を用いる方式は、くじ引きと同じであり、これをもってくじ引き発生率が低いとは言えない。また、妥当かどうかは別として、他都市で導入している平均入札額の 95%とする方式は、平均入札額の 5%以内であれば品質が確保できるという理屈と考えられる。

【札幌市】 ランダム係数を導入している都市も、係数を乗じる前の段階では、本市と同様の状況であると思う。

【蟹江委員長】 札幌市が一部で導入しているような、同一業者が重複して落札しないような仕組みといった工夫とあわせて評価することが必要と思う。くじ引き発生率だけを見ってしまうと、見誤ってしまうかもしれない。

(2) 抽出工事等の決定・審議

山下委員により選定された 2 件の工事について審議を行うこと、および、総合評価方式における落札までの流れについて説明を求めることを決定した。

ア 総合評価方式における落札までの流れについて

【岡田委員】 総合評価方式とそれ以外の入札方式において、要する期間のほかに、従事する職員数の違いはあるか。

【札幌市】 低入札調査に入った場合、調査対象者からの膨大な資料について、通常従事する職員のほか、発注部局を含めて審査を行っている。

【岡田委員】 市側、企業側ともに大きな負担があるように思う。

【蟹江委員長】 落札者が決定するまで、技術者や機械の拘束期間が長く、工期の調整のため、手間もかけないといけない。

【岡田委員】 このような制約があるため、入札参加者が増えないということか。

【札幌市】 仕組み自体の難しさのほか、自社よりも技術力の高い企業が参加する見込みである場合に、参加しないケースもあると考えられる。

【蟹江委員長】 それは、技術力の高い企業が落札するという点で、望ましい方向とも言える。総合評価方式の考え方はよいが、増やしすぎるとデメリットもあるところが難しいと思う。

イ 3・1・47札幌新道（4工区下り線）道路新設工事

【山下委員】 総合評価方式全体について、実際に参加した企業の状況は如何か。

【札幌市】 参加者数はあまり変わらないが、入れ替わりはある。

【蟹江委員長】 入れ替わりはあっても、実際の落札者は昨年度と同じ結果である。新設や加点対象を拡大した項目の意図は理解するが、差がつきにくい項目を増やすことにより、工事成績点といった他の差がつく項目の評価が相対的に低くなってしまうリスクがあると思う。

【札幌市】 特定の企業が有利になるような評価項目だと、その企業のみが落札者となってしまうため、バランスをとる必要がある。また、札幌市として、どのような企業を評価していくかという姿勢も表している。

【小山委員】 本工事の評価項目のうち、実績として提出された工事の工事成績点と企業の工事成績平均点の評価状況は如何か。

【札幌市】 当該項目では、非常に高い水準の点数を設定しており、特に優れた企業が加点される状況となっている。

【蟹江委員長】 加点制限される評価項目の状況は如何か。

【札幌市】 新年度の早期発注分から適用することによって、効果が期待できるものと思う。

【蟹江委員長】 常に落札者が同じという状況であれば、今後も注視していく必要があると思う。

ウ あさひ20号線（こまどり8号線～あさひ6号線間）ほか1線生活道路整備工事

【山本委員】 ほとんどの評価項目の配点は0.5点刻みとなっているが、ボランティア活動等の実績が0.1点となっている理由は如何か。

【札幌市】 他の項目とのバランスを鑑みて配点を決定している。

【山本委員】 サッポロQMSとは何か。

【札幌市】 札幌市が推奨する中小企業向けの独自の品質マネジメントシステムのことである。

【蟹江委員長】 取得状況は如何か。

【札幌市】 取得していない企業もいる。

【蟹江委員長】 取得していない企業があるということであれば、項目として設けることにより拡大が期待でき、意味があるものと理解する。

【岡田委員】 技術評価重視型と地域貢献重視型の考え方の違いはどのようなものか。

【札幌市】 総合評価方式としては、施工や品質管理の确实性の評価をベースとしており、その中でも、技術力を重視するのが技術評価重視型、地域貢献度を重視するのが地域貢献重視型としている。

【岡田委員】 地域貢献重視型に新設した、若手技術者の活用と育成状況の評価基準はどのようなものか。

【札幌市】 活用状況は、本工事に40歳未満の技術者を配置する場合、育成状況は、その技術者を3年以上雇用している場合に評価するものである。

【蟹江委員長】 これらの項目は新しい考え方であり、若手技術者が配置される機会を設けるものである。また、一定の期間雇用しているということが重要である。

【岡田委員】 技術評価重視型にも導入すると、より技術の伝承がなされると思う。

【札幌市】 技術評価重視型は技術力を重視するということであり、若手技術者の育成には将来的な担い手の確保という意味もあることから、地域貢献重視型に新設したものである。

【蟹江委員長】 技術評価重視型はAクラスのような大きな企業が対象であり、比較的企業側にも若い技術者を採用できるような体力があるが、地域貢献重視型が適用になる工事の対象は中小企業であり、インセンティブがないと若い人材が集まらないという状況にあると思うので、地域貢献重視型に新設したものと理解する。

(3) 意見交換

【岡田委員】 意見書の対応状況などの説明を聞くと、現在の取り組みを継続してもらうことになると思う。

【蟹江委員長】 同様の意見であり、抜本的に大きく見直しをかけるものはあまりないと思う。ただ、入札契約制度のあり方は常に改善していく必要があるのと同時に、入札不調の増加など、建設業界側の状態は日々変わってくることから、そのような状況に対応できるよう制度的な検討についての提言はあり得るかもしれない。

【小山委員】 不調に関して、発生しやすい等級のような傾向があるか。

【札幌市】 土木工種ではバリアフリー工事で不調が多く発生するなど、工種によって違いがある。工事内容によって異なり、不調の対応をそれぞれの部局で検討している。

【蟹江委員長】 意見書の概略としては、若手技術者の評価や、成績重視2年型など、継続して実施してもらおうといったことでよいか。

【岡田委員】 入札を取り巻く環境に変化があることが気になる。

【蟹江委員長】 数か月後にはまた環境が変わる可能性もあると思う。意見書の具体的な内容に関しては、次回の委員会で決定することとする。